

様式第2号（第7条関係）

富士見市議会意見交換会実施報告書

実施主体	文教福祉常任委員会	
テーマ	子どもの意見を反映する取組について	
目的	子どもの意見を市政に反映させるため	
実施日時	令和8年1月30日（金）午後7時から午後8時30分まで	
実施場所	全員協議会室	
対象者	人数	7人
	概要	市内児童館職員（代表理事含む）
参加議員	委員長 宮尾 玲 副委員長 山下 淑子 委員 小泉 陽、加賀 奈々恵、田中 栄志、勝山 祥 須崎 悦子	
実施内容		
<p>1 進行</p> <p>(1) 開会</p> <p>(2) 議長あいさつ</p> <p>(3) 委員長あいさつ</p> <p>(4) 自己紹介</p> <p>(5) 意見交換</p> <p>(6) 副委員長あいさつ</p> <p>(7) 閉会</p> <p>*閉会后、アンケート記入・回収、写真撮影</p> <p>司会者：宮尾委員長、山下副委員長</p> <p>記録者：須崎委員</p> <p>2 意見の概要</p> <p>① 「子どもの意見を反映する取組でやってよかったこと」について</p> <p>関沢児童館</p> <p>ホワイトボードを子ども伝言板として活用している。子どもがひとこと書いて、職員が返事を書いている。子ども同士でメッセージのやりとりも行っている。必ず名前を書くので無責任なことは書かない。子どもがやりたいことを伝言板に書いて話し合い、声を聴くこともある。公園での水遊びの取組もそこから生まれた。</p> <p>また、子ども会議において、子どもが描いた絵に「せきりん」という名前をつけ、関沢児童館のキャラクターとして、様々な場面で活用されるようになった事例がある。キャラクターに着せる洋服についても、子どもの感覚と、大人</p>		

の感覚は違うということに気付かされる。

また、利用者アンケートを行い、次の年の事業にしている。また、中学生が小学生の様子をみたいと思って参加するなど、異年齢の子どもたちで遊べる環境がある。

クリスマス会の取組では、子どもの気持ちや意見を取り上げることで、参加者も多くなり、こんなにも良いものなのだと思えた。

諏訪児童館

子どもの意見を聴く場として、子ども会議、子ども新聞、ボランティア活動、子どもが考えた検定、がらくた工場、利用者アンケート等を行っている。

子どもの意見を反映したもので良かった活動は、1つ目にコマやけん玉の検定がある。名人に合格するまで友達へ助言したり寄り添ったり、子どもにとって達成感があったりと心の育ちが見られた。2つ目に子ども会議がある。子ども新聞に載せたいことを話し合っ決めて、子どもなりの言葉で書いている。諏訪児童館が15周年になる記事も、子どもたちが考えた。3つ目に子どもボランティアがある。読み聞かせやおもちゃの消毒などを行い、異年齢交流にもなっている。子どもたちがチームの一員として、職員との信頼関係も生まれている。子どもが自主的に行っている感謝状を渡す取組が素晴らしいと思う。

ふじみ野児童館

パペット人形遊びが発展して、パペット劇場を行なうことになり、子ども会議で舞台やチケットのデザイン等を決めて公演した。子どもたちは率先して児童館の利用者へ呼びかけ、即興劇を行なったことで参加者はびっくりしていた。

また、カプラ大会をやることになったが、芸術的なものだったため順位はつけず、発表会を行った。カプラ発表会の参加募集のポスター作りなどについて、子どもたちは職員と話し合っ実現させたため、達成感につながった。

また、車好きの子どもが本物の車のカタログを持参し、ディーラーごっこをやるなど、得意分野が承認される場を児童館が作っている。利用者アンケートもあるが、日常の関わりの中こそが、意見を拾うことができる場だと考える。

また、アートギャラリーでは、個々の得意分野を認められると、自分が出せて、生き生きと安心できる場になっている。

また、夜間開館は、中高生が活躍できる場になっている。

- ② 「子どもの意見を反映するうえで現場が困っていること」について、「子どもの意見を反映するために今後必要だと思うこと」について

関沢児童館

子どもの声にはできるだけ答えたいが、予算の関係で無理なものもある。学校などと違い、毎日来る場ではないので、リクエストやイベントと合わないこともあるが、回数を重ねることで応えられることもあると思う。子どもたちの発想に応えられるように、職員のスキルを上げていくことが必要である。

諏訪児童館

子どもたちが習い事などで忙しく、行事の日程を決めることが難しい。「子どもまんなか」の取組で、子どもに見えるように、子どもの権利条約について手描きのポスターを貼り出すなど行っているが、職員がファシリテーターとして質を向上させないといけない。わくわくする児童館を展開することが必要である。

ふじみ野児童館

子ども会議を開いても、意見表明が得意な子もいれば得意でない子もいる。日々の関わりの中からつぶやきを引き出すことが必要である。子どもの意見を反映したことを発信していく活動も必要であり、努力をしている。

③ 議員との質疑応答

Q：子どもの声、つぶやきを拾うために工夫していることは何か。

A：意見箱などに改まって書く子どももいるが、普段の会話や遊んでいる中で好きなこと、知っていることを話したりアイデアを出したりする。子どもは考え方が柔軟である。

Q：イベント企画などで、採用する意見のバランスは。

A：バランスは難しい。いつも来ている子どもが中心にはなるが、子どもが10分でも児童館へ来たときに、好きなことなどについて、きめ細かく対応している。

Q：あきらめない発想力について、子どもと一緒に考えて実践したことは。

A：階段を上ることについて、「グリコ」のあそびで1階から3階まで楽しく上る等の提案をしてみた。楽しく上られるような工夫ができたかと考えている。

Q：お祭りなど、外に出ていく活動については。

A：遊びの学校や遊びの出前などの活動があり、育成会などからお誘いいただき、遊びの「ネタ」を持って出かけ、公園などで活動を行っている。全国的にも児童館の外に出ていく活動は少ない。

3 まとめ

児童館職員の方々は、子どもの意見を聴くため、積極的に定期的な研修を行っている。子どもの意見を反映する取組は子ども会議だけでなく、職員が日常的に子どもたちと関わる中で、子どもの考えや気持ち、つぶやきを大切にしながら、児童館活動の中で行われている。意見を引き出すためには、子どもたちとの信頼関係を構築することが重要である。

児童館は管理的な存在ではなく、子どもたちが自由に計画したり、発想したりする、意見表明しやすい場であり、豊かな想像力を生かしながら、自信を持ち自己実現ができる、子どもにとって大切な居場所であると考えている。

児童館の豊かな実践を知る機会となり、また今後の施策に必要な視点も伺うことができ、大変有意義な意見交換会となった。

※この記録は、意見交換会での発言をまとめたものです。

発言内容は、趣旨が読み取れる範囲で一部要約してあります。

令和8年3月2日

富士見市議会議長 様

上記のとおり意見交換会を実施したので、富士見市議会意見交換会実施要綱第7条第1項の規定に基づき報告します。

実施主体の代表者氏名 宮 尾 玲